

令和5年度 指定管理施設評価票

1 基本情報

(令和6年3月31日時点)

施設名	港区立特別養護老人ホームサン・サン赤坂						
指定管理者	社会福祉法人東京聖労院						
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日 ~ 令和 9 年 3 月 31 日						
募集方法	公募	グループ化の有無	○	利用料金制の採用	○	使用許可権限の付与	—
施設所管課	保健福祉支援部高齢者支援課						

2 職員体制

(単位：人)

	正規	常勤	非常勤	非正規	常勤	非常勤	委託（シルバー人材センター等）	合計
職員数	49	49	0	29	2	27	6	84
	令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考	
正規・非正規職員の退職者数	7	3						

3 指定期間における事業実績

事業実績	令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
延入所者数（人）	931	923				
短期入所生活介護延利用数（人）	5,174	6,198				

4 指定期間における経費実績

(単位：円)

項 目		令和4年度	令和5年度	令和 年度	令和 年度	令和 年度	備 考
経費実績	収入	561,444,948	578,669,747	0	0	0	
	指定管理料（清算後）	126,927,852	127,683,279				
	利用料金収入	423,861,404	433,042,706				介護保険収入
	その他収入	10,655,692	17,943,762				緊急一時保護・補助金収入・受入研修費収入・雑収入・国庫特別積立金取崩額
	支出	572,069,771	564,749,751	0	0	0	
	職員人件費	381,535,406	384,201,477				
	光熱水費	44,960,752	41,173,076				
	修繕費	11,730,954	8,489,779				
	事業運営費	51,040,240	49,215,477				
	施設管理経費	79,982,563	80,420,971				
その他経費	2,819,856	1,248,971				減価償却費・徴収不能引当金繰入	
差引収支額		-10,624,823	13,919,996	0	0	0	
年度協定書で定める指定管理料		128,302,654	128,752,543				

5 管理運営状況に対する評価

項 目	評価視点	指定管理者による評価	区による評価		
			評価	加算	点数
【施設の維持管理】	① 設備機器の保守管理	仕様書等に従い、適切に設備機器の保守管理が行われ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	×1	5 / 5
	② 清掃及び衛生管理	仕様書等に従い、適切に清掃及び衛生設備の保守管理が行われ、施設が清潔に保たれていたか。	5 / 5	×1	5 / 5
	③ 修繕対応	迅速に修繕がなされ、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	×1	5 / 5
【事業運営】	④ サービスの向上	事業計画書で定めた事業を適切に実施するとともに、公募時の提案や利用者に声を事業に反映するなどサービス向上を図っていたか。	5 / 5	×5	25 / 25
	⑤ 職員配置	事業計画書等で定めたとおり、必要な知識や技能を持った職員が適正に配置されていたか。	5 / 5	×2	10 / 10
	⑥ 人材育成	施設長や職員に対する研修などにより、サービスの向上に向けたスキルアップに取り組んでいたか。	5 / 5	×1	5 / 5
	⑦ 労働環境	区が定める最低賃金水準額を遵守するとともに、ハラスメントが通報されないなど、職員にとって良好な労働環境が確保されていたか。	5 / 5	×2	10 / 10
	⑧ 安全管理・危機管理	施設の日常安全点検を実施するとともに、災害や事件・事故発生時の体制や対応の確立などにより、利用者の安全・安心が確保されていたか。	5 / 5	×3	9 / 15
	⑨ 個人情報保護・情報セキュリティ	個人情報や情報セキュリティの社内規程を整備し、区の規程とともに遵守して、適正に運用していたか。	5 / 5	×1	5 / 5
	⑩ 区施策への協力	高齢者や障害者の雇用促進、区内事業者の活用、施設の省エネ促進等、区の施策を理解し積極的に協力していたか。	5 / 5	×3	15 / 15
区による評価合計点					94 / 100

【各項目の評価について】

5点：当該項目に係る事項については、充実した取組が展開されていた。

3点：当該項目に係る事項については、概ね適切に取り組んでいた。

1点：当該項目に係る事項については、更なる取組の推進が必要であった。

※複合施設の入居施設等で、当該施設の指定管理者が設備機器の保守管理等を直接実施していない場合、該当項目は「－：評価対象外」とします。

指定管理者による自己評価	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の大規模なクラスターが施設内で発生したことにより、大きな影響をご利用者にも経営的にも受けたことから、令和5年度は、抗原検査を週2回、全職員にし、PCR検査は、週1回、全職員に実施するとともに、利用者から罹患が発生した場合はフロアのご利用者全員抗原検査を行い、エリア別にケアを提供する方法に変更するなど、新型コロナウイルス感染症対応強化に努めました。発生は0ではありませんでしたが、大規模なクラスターを起こさずに運営することができました。 令和5年11月から、業務の効率化・職員の負担軽減・人材育成を目的として介護記録ソフトほのぼのNEXTを導入し、令和6年1月下旬からは特養にてケース記録を試験的にほのぼので入力を開始しました。iPadを13台導入することによりスタッフルーム以外の場面でも入力を可能とするのと同時に、令和5年8月からはインカムも導入して、これまでメモで渡していた情報が瞬時に職員内で共有が出来る環境を整えました。令和6年4月からは、これまで各部署ごとに作成していた日誌を、施設全体の日誌としてほのぼのNEXTで作成を行い（自動取り込み）、電子印をシステム内で行うことでプリントアウトを行わずに処理していくことが可能となります。 また、事故報告書についてもほのぼのNEXT内で作成することで、基本的にプリントアウトはせずに作成していきます。事務連絡についても、基本機能で社内メールを作成できるので、周知事項や職員に個別アプローチもほのぼのを活用して行っています。 今後も業務の効率化、職員の負担軽減に取り組む、良好な施設運営に努めてまいります。
区（施設所管課）による評価	コロナ対策として抗原検査等を定期的に実施して感染に気を配りながらも、ボランティアや中高生プラザの子どもたちと交流する機会を提供したり、食事のテイクアウトにより普段と異なるメニューを楽しむ機会を創出する等、入所者が生活を楽しめる機会を作る取り組みを実施していました。また、入所者が能力に応じた生活を送ることを目標に、看護師の夜間配置や配置医の連携により医療的ケアが必要な方を積極的に受けていたことは評価できます。 人材育成については、業務負担の軽減や人材育成を目的として新たなシステムを稼働し、稼働以前と比較して効率的で各職員のフォローがしやすい体制を導入したことを評価します。 一方、区と連携した感染症対策は見受けられなかったため、その点、事業者自己評価とは異なる評価としました。

6 評価

令和5年度の管理運営に関する総合評価

S

【総合評価について（項番5における区による評価合計点の得点率）】

- S：施設の管理運営は特に優れていた（90%以上）
- A：施設の管理運営は優れていた（80%以上90%未満）
- B：施設の管理運営は適切に行われていた（60%以上80%未満）
- C：施設の管理運営に改善が必要であった（60%未満）